

5月自然教室だより行事報告

新緑の歌姫街道・佐紀古墳群自然観察会

辻本 信一

当初予定の5月20日の降水確率は50/70%で、申し合わせ通りであれば実施すべきところ、観察会を絶好の条件で楽しんでいただきたいとの思いから6月3日に延期し実施させていただきました。

突然の変更でどれだけの方にご参加いただけるか心配でしたが、天候にも恵まれ22名とこれまで以上に多くの皆さまにご参加いただきました。



【参加者の皆さま】

講師にはすでにおなじみの田代貢先生をお招きし、近鉄平城駅を起点に水上池まで、私たちの裏庭とも言える緑豊かな歌姫街道・佐紀古墳群周辺を、途中、添御縣座神社（そうのみあがたにいますじんじゃ）での30分ほどの昼食休憩を挟みながら、朝10時から午後2時半頃まで植物観察を楽しみました。

観察会のはじまりは、途中のお家の生垣のツツジの花の前。田代先生にとっては目にとまるものすべてが教材。合唱団のテノールとして鍛えた良く通る声で参加者全員に聞こえるように大きな声でお話を



してくださいました。【人家の生垣をお借して】

それでは、植物の仕組みやしたたかさ、自然の不思議満載のお話を、紙面の許す限り、以下にダイジェストで紹介させていただきます。

- ・ツツジの蜜標と相性の良い昆虫

ツツジの花の蜜は奥の上側の細い溝にあり長い

口（口吻・こうふん）を持つ蝶との相性が良いが、蝶には花粉が付きにくいので花粉に粘着性を持たせている。

- ・葉のつき方が五角形に見えるウバメガシ
葉の並び方が茎の周りに規則正しく均等に5分割で並ぶので枝先から見ると五角形に見える。

- ・サクランボにもモモと同じ一本の線

どちらも心皮という葉を起源とする組織に包まれた果実を構成。その合わせ目の線が残る。



「花は葉だ！」と

言われるゆえん。【絵にかいて詳しく説明】

- ・マツボックリの鱗片の並び方には法則性
ペンで鱗片の頭をたどると？前回の観察会にも出てきたフィボナッチ数列のお話。自然界の神秘です。ご興味のある方は次回観察会で直接、説明をお聞きください。



- 【ナナミノキ雄花と雌花】 【みんなの視線が一点に】

- ・ケヤキには違った役割を持った2種類の葉種を付けて枝ごと風散布する小ぶりの繁殖葉
光合成を担当する大ぶりの栄養葉

- ・クリとクヌギの葉っぱの違いは鋸歯にあり、クリの棘は二叉分枝(枝分かれ)して伸びている。

- ・イヌビワの葉を食すイシガケチョウ幼虫の戦略
葉っぱの切り口から出る白い汁にはアルカロイド系の毒を含む。イシガケチョウの幼虫は葉元側の維管束を傷つけ花先まで汁が行かないようにして葉先を食す。



【トクサでお遊び】

自然にまつわる感動の話はまだまだ続きますが、やはり、残念ながら、ほんの一部の紹介に終わりました。次回はみなさんご自身の目と耳でご堪能ください。